

融合研が主体的に関与し、そこに大学、産業界、および学会も積極的に協力するような体制づくりの方向性が提案された。これらの提案について、会場を交えた活発な議論が交わされ、従来のアウトリーチ活動についての反省を踏まえて今後のHQを中心とした新展開について多くの期待の聲が上がり、概ね肯定的な意見に集約された。また、エネルギー開発としてのトレードオフについて社会への情報発信の在り方について議論された。

セッション終了後、特に多数の若手研究者から、「日頃核融合のアウトリーチで困ることが多く、HQができれば大変助かるし、協力したい」といった意見をいただいた。このような企画を柔軟に受け入れていただいたプログラム委員や組織委員の皆様に感謝の意を表するとともに、

今後のHQ設立に向けた諸活動へのコミュニティの皆様との協力を願いたい。

(京大・笠田竜太)

## 6. おわりに

多くの方々のご尽力・ご協力により、本講演会を成功裏に終えることができたこと、厚く御礼申し上げます。今回はプラズマ・核融合学会が主体（現地実行委員：京大）となり、2018年に開催されることとなりました。ますますの研究開発の進展とコミュニティの更なる活性化を期待し、より盛大な講演会となることを祈念し、本稿のまとめとさせていただきます。

(日本原子力学会核融合工学部会 山西敏彦)

# 第11回核融合エネルギー連合講演会 若手優秀発表賞選考結果の報告

若手優秀発表賞選考委員会委員長 深田 智

2016年7月14日(木)～15日(金)に九州大学伊都キャンパスで開催された第11回核融合エネルギー連合講演会において、若手優秀発表賞の審査を行い、厳選なる審査の結果、下記の9名を受賞者と決定いたしました。受賞者の皆様、おめでとうございます。今後のますますのご活躍を期待しております。なお、表彰式は、会合二日目の閉会式に先立ち執り行われましたこと、併せて報告いたします。

また、審査においてご協力賜りました会場審査員の皆様、および事前準備と審査結果の集計にご尽力いただいたプログラム委員会委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の審査データは以下のとおりです。

- ・エントリー：121件
- ・審査対象：121件（ポスター発表、物理38件・工学83件）

## 受賞者 9名（50音順）

氏名：枝尾 祐希（量研機構）

講演番号：14P057

題目：施設火災時を考慮したITERトリチウム除去系の設計に関する実験的検討

氏名：加藤 弘樹（阪大レーザー研）

講演番号：15P113

題目：ダイヤモンドアブレーターによるレーザーインプリント低減

氏名：小山 大地（国立明石工業高等専門学校）

講演番号：15P011

題目：レーザー核融合炉に用いる光源防御用液体金属コイルシステムの開発

氏名：権 セロム（量研機構）

講演番号：14P129

題目：核融合DT中性子源FNSを用いた銅ベンチマーク実験

氏名：高倉 啓（東工大、東芝）

講演番号：14P126

題目：慣性静電閉じ込め式可搬型コンパクト熱中性子源の開発ー粒子シミュレーション評価ー

氏名：瀧本 壽来生（東海大）

講演番号：14P089

題目：直線型ダイバータ模擬装置TPD-Sheet IVによるSuper-Xダイバータに関する基礎研究

氏名：成田 絵美（量研機構）

講演番号：15P075

題目：JT-60Uにおける慣性力を通じた回転分布の熱輸送への影響

氏名：能登 裕之（核融合研）

講演番号：15P067

題目：次期原型炉へ向けた分散強化銅材料の開発

氏名：弓弦 一哉（富山大）

講演番号：14P071

題目：イメージングプレート法および $\beta$ 線誘起X線計測法のJET ITER-Like-Wall実験で使用されたダイバータタイル中のトリチウム分布測定への適応性の検討



**若手優秀発表賞選考委員会**

委員：深田 智（選考委員長）、疇地 宏、上田良夫、小川雄一、田中照也、谷川 尚、波多野雄治、山田弘司  
会場審査員：44名